

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）  
分担研究報告書

がんリハビリテーションプログラムの開発

研究分担者	岡村 仁	広島大学大学院医歯薬保健学研究院 教授
研究協力者	安部能成	千葉県立保健医療大学 准教授
	阿部 靖	日本リハビリテーション専門学校 講師
	梅澤志乃	東京医科歯科大学大学院 看護師
	大庭 章	群馬県立がんセンター 臨床心理士
	木村浩彰	広島大学病院リハビリテーション部 教授
	栗原美穂	国立がん研究センター東病院 副看護部長
	酒井太一	順天堂大学保健看護学部 講師
	佐藤大介	千葉県立保健医療大学 講師
	鈴木牧子	国立がん研究センター中央病院 副看護師長
	曾根稔雅	東北福祉大学健康科学部 助教
	中谷直樹	東北大学メディカル・マネジメント機構 疫学部門
	永田友美	トヨタ記念病院 理学療法士
	並木あかね	国立がん研究センター中央病院 看護師長
	濱口豊太	埼玉県立大学保健医療福祉学部 准教授
	村松直子	名古屋市立大学病院 リハビリテーション部技師長
	吉原広和	埼玉県立がんセンター リハビリテーション科主任
	余宮きのみ	埼玉県立がんセンター 医長

研究要旨 がん患者・家族のリハビリテーションニーズ調査，わが国の医療機関に対するがんリハビリテーションの実態調査の結果をもとに作成された，進行がん患者に対するリハビリテーションマニュアル『進行がん患者に対する「起坐・起立・歩行」のためのリハビリテーションマニュアル』の改訂を繰り返し，最終版を作成した。本年度は，作成したマニュアルを臨床現場に導入し，その実施可能性・有用性の検討を行った。その結果，本マニュアルはセラピストが起坐・起立・歩行が困難ながん患者を評価する際、その状態を見落としなく網羅的に評価するのに有用であることが示唆された。

A．研究目的

がんリハビリテーションの概念を確立するとともに，がんリハビリテーションプログラムの開発を目指すことを最終目標とする。本年度は，これまでのニーズ調査や実態調査の結果などをもとに作成した『進行がん患者に対する「起坐・起立・歩行」のためのリハビリテーションマニュアル』の改訂を行い，最終版を作成するとともに，本マニュアルを臨床現場に導入し，その実施可能性・有用性について検討を行った。

B．研究方法

マニュアルの改訂に関しては，研究協力者が一堂に会し，これまで得られた専門家の指摘や臨床現場からの意見などに基づき，項目一つひとつについてチェックを行い修正を繰り返した。

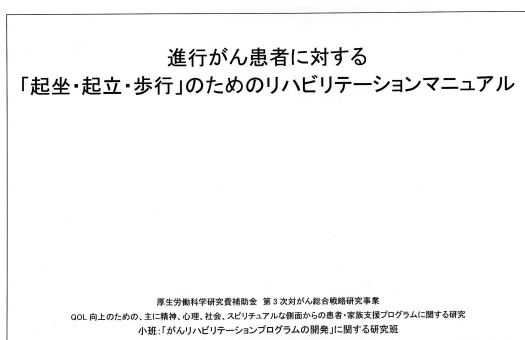
次いで，作成されたマニュアルの最終版を臨床現場に導入し，その実施可能性・有用性の検討を行うために，広島大学病院に入院中でリハビリテーション処方があったがん患者のうち，PSが3～4の患者10名を対象に本マニュアルを導入し，マニュアルを使用したセラピストに感想を求めた。

(倫理面への配慮)

通常の臨床業務の中にマニュアルの内容を一部組み込み、セラピストは項目にチェックを入れるのみであったことから、セラピストの負荷が増すことはないと考えられた。また、患者に対して不利益が生じるものではなかった。

### C. 研究結果

マニュアルについては、項目ごとに討論を重ね、最終版を完成させた(下図)。



本マニュアルを、広島大学病院リハビリテーション部で使用している患者評価シートに組み込み、PSが3~4のがん患者10名に適用した。その1例を下図に示す。

身体症状	現在の対応
血液・電解質・栄養状態の確認: 貧血、低タンパク、炎症反応↑など <input checked="" type="checkbox"/> 疼痛 部位: 正中胸部、背部 安静時 /10 動作時 /10 突出痛 /10 <input type="checkbox"/> しびれ 部位: <input type="checkbox"/> 嘔吐 <input type="checkbox"/> 呼吸器症状 <input type="checkbox"/> 呼吸困難 <input type="checkbox"/> 咳 <input type="checkbox"/> 胸水 <input type="checkbox"/> 喘鳴 安静時 /10 動作時 /10 <input checked="" type="checkbox"/> 消化器症状 <input type="checkbox"/> 嘔気・嘔吐 <input type="checkbox"/> 腸閉塞 <input type="checkbox"/> 便秘・下痢 <input type="checkbox"/> 腹水 <input type="checkbox"/> 腹部膨満感 <input type="checkbox"/> 痛痺 <input type="checkbox"/> 脳転移 (Dr. stage) <input type="checkbox"/> 脊髄転移 (ASTA) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 骨転移 部位: *排尿困難 <input type="checkbox"/> 骨髄腫瘍 <input type="checkbox"/> 全身浮腫 <input checked="" type="checkbox"/> 認知機能障害 <input checked="" type="checkbox"/> 創傷皮膚 <input type="checkbox"/> 褥瘡 <input type="checkbox"/> 穿孔 <input type="checkbox"/> 肺葉あり まとめて今後必要なこと	現在の対応 フェロミア、シナール配合錠、バンコマイシン 鎮痛剤: ロキソニン錠/日、ロキソール錠/日継続、痛発時オプリム錠2錠/日 薬剤: 安静時 Room Air、軽作業時 0.5L/min 歩行時 1L/min 一任栄養導入予定 クレチド内服 ラジックス内服 1日2回地塞米松→週明けは平日近医+休日広大にて処置 創部感染一抗生剤投与9/17終了、CV除去予定
精神症状 <input type="checkbox"/> 不安 <input checked="" type="checkbox"/> 不安定 つらさと支障の薬睡計 Q1 ~/10 Q2 ~/10 <input type="checkbox"/> せん妄 <input type="checkbox"/> 認知症 <input checked="" type="checkbox"/> 不眠	現在の対応 スタッフの対応統一、傾聴、リハビリ時間の確保など サイレース、ルネスタ 1錠/日投与

本マニュアルを使用したセラピストの感想は、

- ・セラピストが起坐・起立・歩行が困難ながん患者を評価する際、その状態を見落としなく網羅的に評価できる。
- ・ただし、得られた情報をどのように統合し、実際のアプローチにつなげていくかについては、今後の課題である。

にまとめられた。

### D. 考察

これまで実施してきたがん患者・家族に対するニーズ調査、緩和ケア病棟ならびに一般病棟におけるがんリハビリテーションの実態調査、および現場の医師・看護師を対象としたインタビュー調査から、がん患者、特に進行がん患者に対してリハビリテーションが担うことのできる役割は大きく、患者や家族、さらには医療従事者のリハビリテーションニーズも高いことが明らかになった。しかし同時に、リハビリテーションを行っていく上での指針がないことによるリハビリテーション実践の立ち遅れや、リハビリテーションに携わる医療者に対するコミュニケーション能力を含めた教育の必要性も示された。以上のことを踏まえ、医師、看護師、理学/作業療法士、心理療法士等の多職種間で繰り返し検討した結果、PS3~4の進行がん患者を対象とした、起立、歩行、移動に焦点を当てた実践可能なリハビリテーションマニュアルを作成した。これまで、緩和ケアあるいはリハビリテーションの専門家に意見を求めるとともに、本マニュアルを実際に使用した臨床現場の療法士からの指摘を踏まえさらに検討を重ねてきたが、今回、最終版を完成させることができた。

今後は、本マニュアルをどのように活用していくかが課題であるが、本年度はまずパイロット的に、本マニュアルをPSが3~4のがん患者10名に導入し、マニュアルを使用したセラピストに感想を求めることで、その実施可能性・有用性の検討を行った。その結果、本マニュアルはセラピストが起坐・起立・歩行が困難ながん患者を評価する際、その状態を見落としなく網羅的に評価するのに有用であることが示唆されたが、次のステップとして得られた情報をどのように統合し、実際のアプローチにつなげていくかについての検討が必要なことも明らかとなった。

### E. 結論

進行がん患者に対するリハビリテーションマニュアルを作成し、作成したマニュアルを臨床現場に導入し、その実施可能性・有用性の検討を行った。その結果、本マニュアルは

セラピストが起坐・起立・歩行が困難ながん患者を評価する際、その状態を見落としなく網羅的に評価するのに有用であることが示唆された。

#### F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

1. Miki E, Okamura H, et al: Clinical usefulness of the Frontal Assessment Battery at bedside (FAB) for elderly cancer patients. Support Care Cancer 21: 857-862, 2013
2. Okamura H, et al: Prevalence of dementia in Japan: a systematic review. Dement Geriatr Cogn Disord 36: 111-118, 2013
3. Yokoi T, Okamura H: Why do dementia patients become unable to lead a daily life with decreasing cognitive function? Dementia 12: 551-568, 2013
4. Endo K, Okamura H, et al: Dynamic exercise improves cognitive function in association with increased prefrontal oxygenation. J Physiol Sci 63: 287-298, 2013
5. Uchimoto K, Okamura H, et al: Investigation of toilet activities in elderly with dementia from the viewpoint of motivation and self-awareness. Am J Alzheimers Dis Other Demen 28: 459-468, 2013
6. 岡村 仁: サイコオンコロジー総論. 心身医学 53: 386-391, 2013
7. 岡村 仁: 心のケアとリハビリテーション・コミュニケーションスキル. リハビリナース 6: 375-379, 2013

##### 2. 学会発表

1. Nosaka M, Okamura H, et al: Integrated yoga therapy in a single session as a stress management technique in comparison with other techniques. Symposium on Yoga Research 2013. June 11-13, 2013. Boston, USA

2. Muraki S, Okamura H: Assessment of factors associated with return to gambling among participants of gamblers. World Psychiatric Association International Congress 2013. October 27-30, 2013. Vienna, Austria
3. Okazaki T, Okamura H, et al: Relationship between social cognition and interpersonal skills in patients with schizophrenia. World Psychiatric Association International Congress 2013. October 27-30, 2013. Vienna, Austria
4. Ohnishi K, Okamura H, et al: Usefulness of reminiscence for patients with schizophrenia utilizing day care or day-night care. World Psychiatric Association International Congress 2013. October 27-30, 2013. Vienna, Austria
5. 岡村仁: 骨転移診療における緩和医療とリハビリテーション医療の融合: 終末期のリハビリテーション; 歩けない時のコミュニケーション. 第 51 回日本癌治療学会総会. 2003 年 10 月 25 日, 京都市
6. 田中直次郎, 岡村仁, 他: 回復期リハビリテーション病棟退院後脳血管障害患者の健康関連 QOL の経時的変化. 第 48 回 日本理学療法学会大会. 2013 年 5 月 25 日, 名古屋市
7. 新井正美, 岡村仁, 他: 乳癌診療ガイドライン(2013 年度版)における遺伝性乳癌卵巣癌のマネジメントに対する評価と課題. 第 19 回日本家族性腫瘍学会学術集会. 2013 年 7 月 27 日, 別府市

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし。
2. 実用新案登録  
なし。
3. その他  
特記すべきことなし。